



ありあけ

2022(令和4)年
4月1日(金)

伸びるカギは「素直」

校長 前嶋 正秀

全校生徒、保護者の皆様、令和4年度を迎え、新しい年度のスタートにあたり、これからの生活を前向きに送ろうと気持ちを新たにしていることと思います。今年度も引き続き「ありあけ」をよろしくお願いいたします。

さて、先日また非常に心に残る記事を見つけたので、今回はこれを紹介したいと思います。

A君「先生、この問題って、先に引き算をしてから割り算するんですよね」

先生「ちがうよ。先に割り算をしてから、引き算だよ」

A君「そうですよね(笑)」

このやり取りで、A君の最後のセリフにはやはり違和感を感じると思います。本来なら、A君の最後のセリフは「ああ、そうだったのか。僕が間違っていました」とか、「ああ、そうか、僕は勘違いしていました」といったものになりそうですね。先生に質問するくらいですから、A君はこの問題がわからなかったか、自信がないので確認したかった、はずですが、自分がこんなことを質問するのは恥ずかしいので、「わかっているんだけど、ちょっと確認してみた」フリをしてしまいました。それが、「そうですよね」というセリフに込められていそうです。

これを筆者は「知ったかぶり」と言っています。そして、この知ったかぶりが勉強の最大の邪魔になる、とも主張しています。A君の発言を「知ったかぶり」というのかどうかはさておき、これが学習を続けていくうえで、とても危険なこと、最大の邪魔になるもの、という考え方は、私もまさにその通りだと感じました。

なぜならば。知らないことは恥ずかしいことでもなんでもありませんし、間違えること、失敗することから、学びは始まるからです。「そうか、そういうことか」「今度は間違えないようにしよう」という気持ちが強ければその分、記憶は鮮明に残るのだと思います。要するに、勉強に限らず「素直な」子どもはドンドン伸びるというわけです。しかし、筆者の言う「知ったかぶり」をしてしまうと、「そうか、そういうことか」「今度は間違えないようにしよう」という気持ちがあいまいになってしまうというのです。

残念なことに、大人でも「そうですよね」とリアクションする人はいます。でも、周囲の人たちは気がついているのではないのでしょうか。「ああ、この人は、本当はわかってないのに、素直にわからないって言えないんだな」ということを。私も、そのようなリアクションをしないように、わからないことを素直にわからない、と言える人、わからないことに素直に耳を傾けられる人でありたいと思います。

皆さんも、わからないことを決して恥ずかしいと思わず、「知りたい」「わかりたい」ことはどんどん積極的に色々な人に尋ねて、そしてしっかり自分のものにしてください。

3月のご報告

本校ホームページ「最新情報」ページをご覧ください。

【高校新クラスの日常】第42号 spring vacation

[14期] 中学卒業式 03.20

【中学新入生のみなさんへ】新中1学年主任より

【バトントワリング部】全国大会に出場します!

[11期生] 高校卒業式 2022.03.01 他

*今後の予定については、急な変更の可能性もありますので、学校からのメール連絡等をよくご確認ください。

次回は5/1(日)発行予定です。(広報部)